

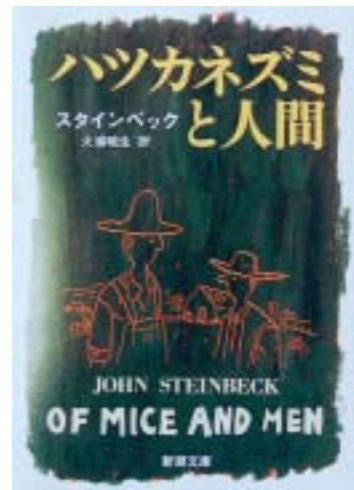
国際社会での共生を模索する日々、 思い出す一冊

スタインベック著『二十鼠と人間』 新潮文庫

ス タインベック
 『二十日鼠と人

間』（新潮文庫）を薦めます。一九二九年、ニューヨークウォール街で株価が大暴落、それは全世界へ波及して、深刻な不況にどの国も苦悩する恐慌の始まりとなりました。アメリカでは一九三〇年代前半に失業者が一千万人を越え、労働者の三人に一人は生活の糧を失い、家族の離散も増えたといわれます。この本は、そうした時代に労働力以外に売る物を持たず、生活の糧を求めて広大なアメリカ国内の農場を渡り歩く二人の農業労働者の物語です。

彼らは過酷な労働を強いる農場主の機嫌を損なわないよう、また同じ境遇の見も知らぬよそ者たちの視線と仕事の押し付け合いに、神経をすり減らしながら、わずかな賃金を得るため肉体を酷使するのです。すさむ気持ちを支えてくれるのは、ともに旅をする相棒であり、また将来の夢です。その夢とは？自分たちの農場を持つこと



です。互いにかばいあいながら生きようとする彼らに、大きな不幸が襲います。続きはどうぞ、本を読んでください。



今野 昌信 (こんの・まさのぶ)

経済学部助教授。
 1991年03月中央大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。79年04月から81年12月まで株式会社北海道拓殖銀行、90年10月から91年03月まで財団法人電気通信政策総合研究所、91年04月から97年03月まで函館大学商学部、97年04月から高崎経済大学経済学部に勤務。専門は国際金融論。「なんでこんなに難しい分野に首を突っ込んだんだろうなあ！」と嘆きながらも、楽しんでいきます。